

## 訪れの時

2013年8月2日 アシェル・イントレータ

以前の記事で(エルサレムのための涙--2013年7月7日)、イエシュア(イエス様)はエルサレムがどのように滅びるかを預言したことについてお話ししました。主は「おまえが、神の訪れの時を知らなかったからだ。」と説明しました—ルカ 19:44。

この「訪れ」という概念はヘブライ語の預言書に頻繁にでてきます。この PaKaD という語根は単純に「訪問」を表すほか、「父の咎を子に報い」--出エジプト 20:5 とあるように、よく罰や裁きについて言及している場合があります。また祝福や回復が訪れるといった意味にも使われます(創世記 21:1、50:24、出エジプト 3:16、4:31、ルツ 1:6、第1サムエル 2:21、詩篇 8:4、65:9)。

ルカ 19:44 のイエシュアの言葉は、黄金の仔牛事件の後、モーセに与えられた預言の成就でした「わたしの使いが、あなたの前を行く。わたしのさばきの日にわたしが彼らの罪をさばく」--出エジプト 32:34。出エジプトで彼らを救った YHVH の御使いが、ある日彼らの不義のため彼らを訪れるためやって来るのです。

訳注--YHVH(創造主である神の名前、イェホヴァー、ヤーウェーと呼ぶとされるが発音は不詳、ユダヤ教徒は普通、主(アドナイ)と読む)

ルカ 19:44 でイエシュアは、エレミヤ(5:9、29、6:6、15、8:12、9:9、10:15、14:10)によって何度も預言されているユダにとっての「訪れの時」に言及し、引用しています。またイスラエルにとっての訪れは、「北王国」の預言者たちによって為されました(ホセア 2:13、8:13、9:7、9、アモス 3:14、ミカ 7:4)。裁きの訪れは、その他の人や国によって為されています。以下はその例です。

詩篇 59:5 – 異教徒の国

イザヤ 10:3 – アッシリア

イザヤ 23:17 – レバノン

イザヤ 29:6-7 – 国々によるエルサレム攻撃

エレミヤ 46:21; 50:27、31; 51:18 – バビロンにとっての訪れの時

エレミヤ 48:44 – モアブにとっての訪れの年

エレミヤ 49:8 – エドムにとっての訪れの時

エゼキエル 38:8 – マゴグによる国々の連合

預言書の中の最も難解な部分は、国々に対する裁きについての幅広い解説でしょう。しばしばその裁きは、彼らのイスラエルに対する仕打ちが原因でした。国々の裁きはメシア(キリスト)の再臨の

時に成就します。

エルサレムにとって、訪れの時は AD33 年、陥落が AD70 年、奪回が 1967 年でした。国々に対する完全な裁きの時はまだ来ていません。イスラエルは雛形の国です。イスラエルが「訪れの時」にある時、(その他の)国々もそれぞれの「訪れの時」にあるのです。それは恐ろしい時。それは、YHVH の大いなる恐るべき日の訪れなのです。

国々の裁きの「訪れの時」は、シオンの「恵みの時」と時を同じくするのです。

**詩篇 102:13—あなたは立ち上がり、シオンをあわれんでくださいます。今やいつくしみの時です。定めの時が来たからです。**

回復の訪れの時が、弟子たちが使徒 1:6 でイエシュアに訊ねたことでした--「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか」。彼らは裁きの訪れは無く、恵みの訪れだけがあると思っていました。なので彼らは、イエシュアが明解に語ったことが正確に理解できませんでした--「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています」--使徒 1:7

その正確な時期は知らなくても、私たちにはそれを認識することができます(1 歴代誌 12:32、1 テサロニケ 5:1-4)。全ての人間に対する定められた裁きの時を含む、予定された時と季節があります(使徒 17:31)。

イスラエルを裁くための訪れの時がありました。今日、私たちは異邦人の時が満ちるまで、国々への福音の恵みの時代にあります(ルカ 21:24、ローマ 11:25)。そしてその後、この世の国々にとっての「訪れの時」が来るのです。その時は、日一日と近付きつつあるのです。

## カナン人の霊性

ウジエル・ロゼンバーグ

神はモーセとヨシュアに対しカナン人を殺すことを命じました。彼らは偶像崇拜、不品行、子殺しといった悪徳にまみれていました(申命記 12:31)。彼らは、悪霊やそれらに対する礼拝に満ちていたのです。

古代イスラエルには、イエシュアがまだ悪霊の追い払い方を教えていなかったため、それらの民を殺すこと以外に悪霊の働きをとどめる術がなかったのです。しかしイエシュアは弟子たちに悪霊を追い出す権威を与え、そしてそれは私たちにまで引き継がれています。

今日、私たちは霊的な闘いにおいては、人間を殺すことなく悪霊に立ち向かうことができます。カナン人たちを通してイスラエルに敵対していた同じ悪霊たちが、今日においても神の民に対して闘いを挑んでいます。

私たちには、霊的な武具(エペソ6:11)、武器(2コリント10:4)、聖霊にある権威とイエシュアの御名があります。イスラエル人がカナン民族と闘ったように、私たちの闘いはカナン人を率いていた悪霊に対するものです。

## 法王ブラジルへ

ハロルド・ウォーカー

今週フランチェスコ法王がブラジルを訪問し、熱狂的な民衆の前でメッセージを語りました。彼は民衆を愛し、貧困層をいたわり、質素な生活を好み、そして素晴らしいカリスマ性を備えた人と見ることができます。彼は、国家の要人から一般民衆の一人に至るまでの、あらゆる種類の人に対する話し方を心得ているのです。彼には、カトリック教会が制度に縛られた組織から、もっと人に優しいものへと改革していくことが期待されています。

彼はまた、マリアへの礼拝に人生を捧げた方でもあり、彼のメッセージにはイエシュアとの個人的な関係について述べたことがありませんが、しかしブエノスアイレスでの昨秋(日本では春)、牧師と司祭が一堂に会する大規模な会合がありました。イミティアン牧師が心の一新の真の意味について分かち合った時、出席者の一人が当時のベルゴリオ大司教で、出席している司祭一同にこの経験がとて有意味なものであると語り、大勢の司祭たちが講壇からの招きに応じ、前に出たのです。その数ヶ月後に彼はフランチェスコ法王となりました。